環境パートナーシップちば

だより

— つながれ ひろがれ —

Vol.13（領価200円）

編　集　環境パートナーシップちば
代　表　横山清美
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
（財）千葉県環境財団 環境学習推進室内
電　話　043-246-2180
FAX　043-246-6969

就任あいさつ

財団法人千葉県環境財団
理事長　宮崎勝美

本年4月1日付けで、理事長に就任しました。

「財団法人千葉県環境財団」は、設立以来、水質・大気等の各種調査・分析業務、産業廃棄物の処理、環境影響評価業務をはじめとして環境学習など環境保全に関する知識の普及啓発等を実施してまいりました。最近では、土砂等の埋立に関する条例に基づく土壌分析やダイオキシン類等の汚染物質の調査・分析にも積極的に取り組んでいます。

今日、ダイオキシン類や環境ホルモン、地球温暖化、ごみ問題、水質汚濁等多くの環境問題が山積しています。

深刻化していく環境問題を解決するためには、市民・企業・行政が連携しながらそれぞれの立場で取り組んでいくことが必要です。

こうした中で、市民の立場から環境に取り組まれている方々が集まって結成された「環境パートナーシップちば」は、年々充実した事業を推進されてきました。平成12年度は、近年注目を集めている「地球温暖化防止」について取り組まれるとのことですが、当財団としても「環境ボランティアネットワーク推進事業」の一つとして協力させていただきます。

今後も、貴団体とのパートナーシップを大切に環境保全事業を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に「環境パートナーシップちば」のさらなるご活躍、ご発展を祈念してごあいさつとさせていただきます。

平成12年度総会開催

今年度は“地球温暖化防止”への重点取り組みを

平成12年度総会が、4月15日（土）千葉市立美術館において行われました。当日はあいにくの雨模様の天気でしたが、個人・団体併せて50数名の多くの方々に御集りいただき、活発な実り多い総会となりました。

総会は代表の挨拶に続いて、今年度より着任なさった宮崎勝美理事長の暖かいご支援のごあいさつをいただき、開会いたしました。

平成11年度の活動結果と会計報告・承認に続いて、平成12年度は“地球温暖化防止”への取り組みを重点方針とすることが提案され、学習会やフォーラム・エコツアーを重ねてゆくことが決議されました。具体的内容は、今後会員の皆様とともに作り上げてゆく予定です。是非、建設的なご意見ご提案をお寄せください。

予算案については“会員や役員の方々の負担を出来るだけ少なくする”柔軟な予算措置のご提案、寄付金等雑収入の立案の改善等多くのご意見を頂きました。

その他、本会へ加入している連合団体の内訳を、分かりやすく整理するよう提案を頂きました。

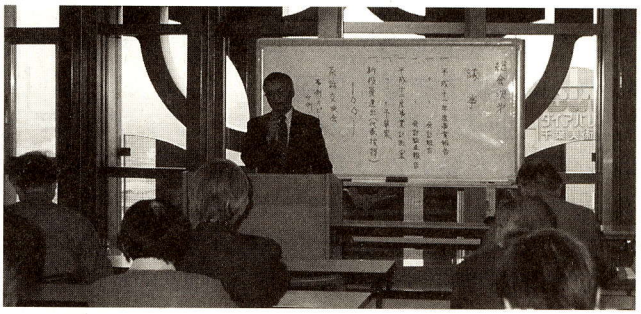
続いて、新年度の役員の選任が行われました。本年度は8名の方が交代され多くの新メンバーのご登場となりました。交代された役員の方々には本当にご苦労さまでした。

総会終了後、「環境パートナーシップちば」の略称について和気あいあいの議論がなされました。最後は多数決で「環パちば」が決まりました。今後いろんな場面で「環パちば」が登場します。よろしくお願いします。

恒例の“事例7分間スピーチ”は、茶話交流会のオープンな形式で4事例の発表があり、いずれも日頃の活動のご苦労と喜びを身近にふれあう意義深い出会いの場となりました。

様々の積極的なご討論をいただく中、総会はつつがなく終了し、いよいよ今年度のスタートをきることになりました。会員の皆様の一層のご協力とご支援を、心よりお願い申し上げます。

書記　北村　元良



持続可能な社会にむけて

4月15日千葉市美術館11階講堂にて、環境パートナーシップちば平成12年度総会を、開催いたしました。会員の皆様にはそれぞれの活動にお忙しい中をご出席いただきましてありがとうございました。この総会にて「だより」で募集していました略称が『環パちば』と決まりました。アイデアを出してくださった皆様、ご協力ありがとうございました。

平成11年度事業報告では、「三番瀬の現状を正しく理解する」を目的とした三番瀬の学習会や盤洲干潟・国立環境研究所の2度開催したエコツアー等の報告がなされました。地域や活動分野の異なった参加会員によるバス車中での交流も今では、エコツアーならではの魅力となっています。ここでの交流がきっかけとなり、市川のガールスカウトの少女達が睦沢の森で遊ぶ会にお招きいただいて、春の森で竹の子狩り、竹細工などフィールドを持たない都市の子ども達にはまたとない体験を学習させていただいたと、嬉しい報告をいただきました。これからもどんどん交流の場としてもご活用下さい。もちろんエコツアーは、平成12年度事業計画にも盛り込まれておりますのでどうぞご期待下さい。

今年度事業の重点目標は、地球温暖化防止についての事業です。これは推進法が制定され、県や各市町村が環境家計簿の実践など行政の重要事業となりますので、「環パちば」が協働できる絶好な有意義なテーマです。「環パちば」の代表として千葉県温暖化防止対策検討委員会に参加したことがきっかけとなり、スタッフで話し合う中で、12年度は地球温暖化防止に重点を置くことが確認されていきました。光害と大気の両面からの気づきに視点を置いたスターウォッチングにもチャレンジしていきます。地球温暖化防止は10年先を見据えての長い事業となります。また各地域のみなさんの参画のもと千葉県全体に広げるものであるという認識から、当会目的に適った大きな事業となることを期待し、3回の学習会とフォーラムの中で進め方を考え実践しましょう。

行政・企業・市民のパートナーシップ学びの場として、5年続いた「環境シンポジウム千葉会議」や「エコメッセ」にも、実行委員会に参加して力を入れていくのは言うまでもありません。

当会運営委員は別掲の通り新体制となりましたのでよろしくお願いいたします。

最後となりましたが、身近なパートナーである千葉県環境調整課にＮＰＯ関係が加わって環境生活課となりました。また「環パちば」の事務局を担ってくださっている千葉県環境財団にても、麻生理事長・斎藤理事・伊豆室長が財団より転出されました。皆様には大変お世話になったこと感謝いたしております。ありがとうございました。

そして12年度は宮崎理事長・高橋参事・中村室長にお世話になることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。　代表　横山　清美

《活発な質疑応答》

新役員紹介

代　表	横山清美
副代表	深尾秀次（広報）
	川原啓佑（事業）
	永島輝代（総務）
会　計	大西優子
	柏木靖子
書　記	北村元良
	小野　朗
総務部長	永島東洋輝
副部長	服部丈夫
事業部長	田口迪夫
副部長	松尾昌泰
広報部長	縣　和子
副部長	山口由富子
監　査	服部　洵
	林　清三

縁の下の力持ちは、お任せください

本年度、総務部長を担当するようにとのことで、力不足を感じ乍らもメンバー各位のご協力と後押しを得て、お受けすることになりました。

環境問題は日々拡大し、複雑化して行くのが現状ですが、私たちは足元から出来る活動を市民・行政・企業が如何にネットワークし、展開して行くかと言う大きなテーマがあります。「環パちば」がその一翼を担うと言うことでしょうが、システムの中で総務の仕事は「環パちば」がスムースに運営して行けるよう調整機能の緊密かつ、総合的な役目を主とするものと心得ます。

くだいて言わせて貰うならば、「縁の下の力持ちはお任せください」と言うことになりますが、所詮一人では力にも限界がありますので、メンバー各位の絶大なご協力を仰ぎ、出せる力を惜しまず頑張りたいと存じます、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総務部長　永島　東洋輝

21世紀を目指して――事業部の活動計画――

地球温暖化防止についての地球規模の対策が本格的に動きだしました。大気中の二酸化炭素(CO_2)など温室効果ガスの濃度が上がるにつれて、地球規模で気温が上がり、異常気象が起きると言われているためです。

さて、「環パちば」では今年度なにができるか、なにをなすべきかを、考えてみました。基本的には3本の柱を考えています。

第1に環境家計簿を千葉県下全域に普及させることです。県下80自治体の小中学生や自治体や企業の応援を要請して実行に取り組みます。参加者の学習にむけて講師、教材の準備等、種々の克服しなければならない問題点があります。

第2にマイバッグ運動の普及徹底をよびかけます。スーパー、コンビニのレジ袋、ごみ回収に伴う各市町村のごみ袋のあり方、これらの問題について会員相互の意見交換により、私達の取り組み方についての合意点を見出したいのです。

第3に星空観察（スターウォッチング）を実施します。この地球を覆う大気が良好な状態を保っていることによって、はじめて健全な生活を営むことができます。星空の観察という身近な方法により大気環境の状態を調査し、光害の実態にも迫っていきます。

上記3本の柱を推進するための学習会の実施、例年通りのエコツアーを2回程度企画し、環境問題に対する意識をもってもらい、併せて会員相互のコミュニケーションを高めていきたいと考えています。

事業部長　田口　迪夫

平成11年度事業報告

月　日	事　業　名	内　　容
4／25	総会	
6／14	「だより」発行	VOL. 7
6／20	三番瀬学習会	三番瀬についての理解を深め、環境保全と暮らしについて考える
7／29	「だより」発行	VOL. 8
8／27	エコツアー	盤州干潟・谷津干潟自然観察センター・サッポロビール船橋工場見学
9／28	「だより」発行	VOL. 9
10／17	シンポジューム参加	99環境シンポジューム千葉会議
10／23	エコメッセ参加	エコチェック・缶バッチで参加
11／20	環境学習フェスティバル参加	エコチェックで参加
11／21	〃	〃
11／29	「だより」発行	VOL. 10
1／20	「だより」発行	VOL. 11
2／18	エコツアー	国立環境研究所と国立科学博物館筑波実験植物園
3／14	「だより」発行	VOL. 12

平成12年度事業計画

月　日	事　業　名	事業内容
5月	「だより」発行	VOL. 13
5月	学習会Ⅰ	地球温暖化について
6月	フォーラム	地球温暖化防止について
7月	「だより」発行	VOL. 14
7月	学習会Ⅱ	地球温暖化防止について
8月	エコツアー	
9月	「だより」発行	VOL. 15
9月	学習会Ⅲ	地球温暖化防止について
10月	エコメッセ参加	
	シンポジューム参加	
11月	「だより」発行	VOL. 16
1月	「だより」発行	VOL. 17
2月	スターウォッチング	光害大気問題を考える
3月	「だより」発行	VOL. 18

「環境家計簿で私たちの生活を見直してみましょう」
—持続性のための社会を、持続性のための教育をめざして—

TEA NET　石井　晧

1　「エコアクション31」をご存じですか？

毎日の生活の中で、ちょっとした事をすることによって、地球の環境を守る活動に参加することが出来ます。この「エコアクション31」はみなさんがどこでもどんな時でも参加できる活動の例を示したものです。例えば、「部屋を出る時は、照明のスイッチをこまめに消す」や「洗濯はまとめ洗いをする」などです。

産業革命以降、日本では明治以降の近代科学技術の「発展」はガソリンや石油、天然ガスなどの化石燃料に支えられて来ました。そして、「戦後」や「３Ｃの時代」、「新幹線」と私たちの生活の状況は変わり、大量生産・大量消費の構造はいつのまにか私たちの心の中に「ものを大事にしない」習慣を持ち込んでいるようです。

南極大陸の氷の固まりが海に落ち、アルゼンチン沖に流れていくというニュースが新聞に報道されていました。大阪府ほどの大きさであるということで航行する船舶に対して警告が出されたということです。北アフリカなどの乾燥地域では砂漠化が進んでいます。大量に化石燃料を消費していることと地球環境の変化は無関係ではありません。このような地球環境の破壊を防ぐために「気候変動に関する国際連合枠組条約」が1992年に国連で採択され、1997年12月に京都で開催されたCOP3（政府レベルの会議）で「同条約京都議定書」が採択され、条約締結国は炭酸ガスなどの温室効果ガスの排出量を減らす努力を約束しました。

「エコアクション31」などの省エネの活動や環境家計簿をつけることから、大量生産・大量消費のライフスタイルを見直し、私たちの21世紀の地域と地球の環境のあり方を考えていきましょう。

2　持続性のための社会、持続性のための教育の具体化

地球は美しい青い星であるという宇宙飛行士の言葉からもはっきりわかるのですが、私たちの地球は無限に広がるものではなく、その資源は、特に石油などに代表される化石資源は有限です。この有限な資源を有効に生かす試みを評価するシステムを州として採用しているところがあります。米国のバーモント州（人口56万人）です。バーモント持続性のための仕事基金（VSJF）は23プロジェクト（1997年）に補助金を支出し、環境保全のための仕事を創出しています。例えば、緑を守る31の森林経営者に「みどりの証明」を行い、約51％の増収をもたらしています。23の女性編み物協会に補助を行い、新しい消費者を見つけ、協会が独立して活動できるように家内ビジネスの支援をしています。私たちの地域環境と地球環境を守る活動の実践的な例があります。これは我が国の中にもたくさんあります。「エコアクション31」を行い、環境家計簿をつけることを通して、環境保全活動に参加して、交流を行い、地球を守る考え方や方法を学び、実践しましょう。

3　環境家計簿

環境家計簿は前述の京都のCOP3にあわせて、環境庁から提示されたものとして、毎日記録するものと毎週記録するものがありますが、記録内容が細かく煩雑だという意見がありました。実際に環境家計簿をつけている伊藤章夫氏（千葉県環境教育研究会研究発表会資料）によれば、家庭では電気・ガス・水道の使用量にガソリン・石油の消費量を記録すれば、家庭でのエネルギー消費を把握できるそうです。そして、ゴミ（生ゴミをもちろん含む）を計量することで環境家計簿は完成するということです。

この記録の方法であれば、電気・ガス・水道は月毎集計（２ヶ月集計もあり）を日割りして月初めからの集計にすることが出来ます。ガソリン・石油も購入時の領収書から走行キロ数によって日割りして、月初めからの記録をすることが出来ます。

4　私たちのライフスタイルの見直しをしましょう。

「エコアクション31」は次の表の通り、毎日の生活を少し振り返ってみることで出来ます。環境パートナーシップちばのみなさんと一緒に私たちの毎日の生活を見直してみましょう。千葉県には200万世帯のご家族がお住まいになっています。この方々と一緒に環境家計簿をつけてみたら、地球をまもる大きなちからになることでしょう。

表1「エコアクション31」

（1）部屋を出るときは、照明のスイッチをこまめに消す
（2）テレビ、エアコン、ビデオなどを使わない時には、主電源のスイッチを切る
（3）長時間使用しない電気製品・電気ポットなどはコンセントから抜いておく
（4）冷暖房は適正な温度（冷房２８℃・暖房２０℃程度）に設定して使用する
（5）カーテンやブラインドを上手に利用し、冷暖房効果を高める
（6）部屋を必要以上に明るくしすぎないようにする
（7）エアコンや掃除機のフィルターをこまめに掃除する
（8）冷蔵庫の内容物を整理し、詰め込み過ぎをさける
（9）冷蔵庫のドアの開閉時間をできるだけ短くする
（10）洗濯は、まとめ洗いをする
（11）就寝時や外出時には、暖房便座のスイッチを切る
（12）沸かした風呂が冷めないうちに、家族が続けて入る
（13）使用しない時のガス給湯機や風呂釜の種火をこまめに消す

（14）鍋ややかんなどの調理器具を火にかける時は、水気を拭き取る
（15）買い物袋を持参し、無駄なポリ袋等を断る
（16）過剰包装を断り、簡易包装にしてもらう
（17）詰め替え商品や繰り返し使用できる製品を選ぶ
（18）不用になったものはバザーに出すなど、再利用を図る
（19）紙コップや紙皿などの使い捨て製品を買わない・使わない
（20）再生紙を用いた紙製品などのリサイクル品を選ぶ
（21）空き缶や古新聞等の資源ゴミの分別回収に協力する
（22）調理の仕方を工夫して、食材を使い切る
（23）歯磨きやシャワーの時は水の流し放しをやめる
（24）食器や洗濯物などを洗う時は、ためすすぎをする
（25）洗車などでは、ホースからの水の出し放しをやめ、バケツにくみ置きして使う
（26）生ゴミは、コンポスト※化して肥料として利用する
※注 コンポスト：わら、樹木の葉、生ごみなどを微生物の作用によって分解し、堆肥に変えたもの
（27）近所への買い物等には、できるだけ自動車を使わず、徒歩・自転車で移動する
（28）なるべく、バスや鉄道などの公共交通機関を利用する
（29）不必要な空ふかしやアイドリングをやめる
（30）走行時は急発進や急加速をしない
（31）ゴルフバックやキャンプ用品などの、使用しない荷物を積んだまま走らない

マイバック持参運動を

私たちが1年間に使用するレジ袋は、日本の原油輸入量の1日分に近い5億7800万トンを消費し、約28万トンのごみになっています。

地球温暖化防止が急務の現在、資源を大量に消費し、ごみを増やすレジ袋の使用を止めマイバックを持参する運動は、私たち市民が取組め実効ある誰でもが参加できる行動だと考えます。

一方、年間5千万トンにのぼる家庭から出るごみのうち、重量で4分の1を占める容器や包装を減らすため、これらを使用、製造する企業に再資源化を義務づけた容器包装リサイクル法が、4月から完全施行されました。これにともない、これまで無料配布のレジ袋の重量に応じて再商品化費用を支払う義務が量販店に生じるようになり、レジ袋の配布量削減が期待されます。

先般、千葉県消費者団体連絡協議会が、県内の百貨店・スーパー・コンビニの参加で行った話し合いの席上でも、「消費者のレジ袋の要望は強く無視できない－店側」「レジ袋の使用を減らすため有料化できないか・各店共通の物があればどこの店でも繰り返し使える－消費者」等、様々な問題点が出されました。

マイバック持参運動を拡げるために、「マイバックコンクール」をはじめ、ごみ行政の問題までを含め、充分な討論を展開していきたいと思います。

会計　大西　優子

スターウォッチング・ネットワークがめざすもの
全国星空継続観察の実施について――

今、地球温暖化問題といえば、まず初めに頭に浮かぶものは、CO_2等の排出による大気汚染の問題ではないだろうか。

健全な大気が健全な雨を産み、健全な生命を育む。この図式は誰もが納得できるものであるが、その大気の健康状態を知るということは容易ではない。そこで冒頭に上げた「全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）」は、全国一斉に星空の観察を行い、大気環境の調査を行うと共に、参加者各人に大気環境保全について考えていただこうと、環境庁大気保全課と（財）日本環境協会の提唱により昭和63年より継続されている活動である。

夏の観察では、肉眼による天の川の観察とベガ（琴座）の1等星付近の観察、そして写真撮影の3種類の方法で行い、冬は3種類のうち星座をスバル（プレアデス星団）のラケットの中の星のカウントに置き換えて実施する。その活動に『環パちば』も啓発活動のひとつとして、今年度より参加協力することとなった。

大地に寝転び星空を仰ぎ見るとき、その悠久な大自然の語りかけは、私たちに自然の偉大さと神秘とロマンと、人の世の雑事のはかなさを論し、同時に大切さを学ばせてくれる。

しかし、最近とみに気になって来たものに、地平線の夜空を侵食する光り公害（光害）がある。不適切な照明が資源の浪費を促し、生態系にも悪影響を与え始めているという。皆さんもスターウォッチングに参加して大地に寝転び星空を眺めて、今何をすべきか、個人として何が出来るかをもう一度、考えていただきたいと思う。

広報　山口　由富子

環境の輪を広げる 7分間スピーチ 団体活動報告

手賀沼ふれ愛フェスタに見るパートナーシップ

美しい手賀沼を愛する市民の連合会　星野　保

日本一汚ない手賀沼を元の美しい姿に戻すには、行政は縦割りを廃し、流域市民団体は横の繋がりを強化し、お互いが立前論でなく本音の話し合いのもと、市民と行政がパートナーとなって浄化活動に取組むことを標榜して、平成7年12月3日、美しい手賀沼を愛する市民の連合会は14の市民団体で発足した。

爾来5年目を迎えるが、この間平成10年2月1日には、柏市・我孫子市・沼南町・山階鳥類研究所（以下山階鳥研と略す）：美しい手賀沼を愛する市民の連合会（以下美手連と略す）の五者による「手賀沼流域フォーラムに関する協定書」が取り結ばれて、五者による実行委員会により、その秋フォーラムが開催された。

次いで平成11年秋には、環境庁主導のもと、「手賀沼ふれ愛フェスタ」が、国・県・流域6市2町・山階鳥研・連合会共催により、柏市民文化会館と手賀沼親水広場の2会場で盛会に開催された。

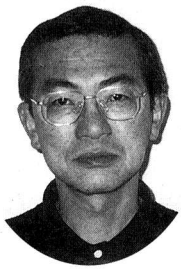
平成12年に入り、昨年の反省に起って、県・流域6市2町・山階鳥研・美手連の代表者により「手賀沼ふれ愛フェスタ」実行委員会が組織され、10月28日開催に向け毎月1回の会議を持ち綿密な計画を練っている。

この間我々の趣旨に賛同する団体が増え、流域の自治労職員組合も加わり、現在25団体を数え、まさに市民と行政がパートナーとなっており、これが各方面に好影響を醸し出している。

我孫子市中峠１３０４
Tel：０４７１－８８－０００１

市民と行政のパートナーシップ・市川市環境市民会議の実践

千葉エコネット　深川　明俊



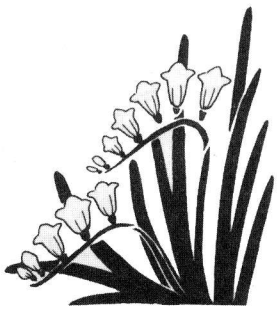
平成10年7月に制定された「市川市環境基本条例」の理念に沿って設置されたのが、市川市環境市民会議です。「市川市環境基本計画」の策定に向けて、市民の考える①循環型社会づくり、②自然との共生、③みんなの参加、④地球環境問題への取組、以上4つのテーマについて市民提案されました。

平成11年2月、全員公募（70名）から、15人のメンバーが選任され、自主運営で、全体会議（公開）がスタートしました。当初の設定は6回の全体会議が、市川の地球環境を良くしようと目的意識が高まり、合計63回の会議、シンポジウム、見学ツアー、勉強会の開催、4回の広報の発行等、精力的な活動の成果を、平成11年9月に「環境基本計画への市民提案書」を千葉光行市川市長に提出しました。

提出後、市民会議の有志をコーディネーターとして「いちかわ地球市民会議」（登録者41名）が結成され、①エコ・エネルギー部会、②エコ・ライフ部会、③エコ・情報通信部会に分かれ、計画の実践に取り組んでいます。エコ・ライフ部会では、市川市が平成12年9月完成予定の「環境家計簿」が、市民が使いやすいシンプルな環境家計簿の作成作業に行政と一緒に取り組んでいます。

この1年、市民と行政が共に歩んできた主因は、市民の自然活動、行政の誠意ある事務局機能の中から、信頼が生まれたことだと思います。「市川市環境基本計画」は、2月に策定され、新たなテーマを設定し、今年も環境市民会議は

連絡先：市川市東管野３－４
Tel：047－334－



私とケナフ（Kenaf）との出会い

松戸ケナフの会代表　石家　駿治

‘環境保全’を大切な目標の一つとして立ち上げた私の仕事も、『環パちば』への参加で、ある程度‘明文が立つ’感じがしたが、平成10年、そのある集会で「非木材紙普及協会」主催で‘環境に優しいケナフの栽培’の呼びかけがあり、二つ返事で参加した。その方が環境に関する具体的な行動と思われたからである。

初めは千葉市の土気でケナフの種まきから刈り取りまで、途中可愛い淡白色のケナフの花を楽しんだり、血気盛んなM氏らと『千葉ケナフの会』を立ち上げたりした。ケナフは簡単に栽培できると言う言葉を安易に受けて草取りなどを怠けた私の畝の出来が悪かったことを反省したりした。次にもっと松戸に近い『船橋ケナフの会』に参加し、そこでは地味ではあるが実践家のN氏と出会い、その「手すき工房」を通してケナフの栽培と応用の勉強をさせて頂いた。

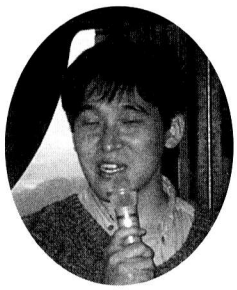
その頃、佐倉、鎌ヶ谷、野田、関宿など千葉県の各市でつぎつぎと「ケナフの会」が設立されたので、わが街松戸でもやってみたいと思い、学校の校長先生だった間嶋シズさんと化学機械の技術屋であった土田茂通氏と3人でケナフの会を立ち上げ、この3月19日に『松戸ケナフの会』の設立総会（会員数約40名）をした。

私とケナフとの関係を育てて下さった各ケナフの会の皆様に感謝しつつ、そして、生まれたばかりの『松戸ケナフの会』が『環パちば』の皆さんのご協力も得て、実際のケナフと同様ぐんぐん成長することを祈りつつ拙稿を閉じる。

〒271-0052　松戸市新作１３２５
Tel. 047 － 364 － 5608　Fax. 047 － 368 － 6607

行徳野鳥保護区における湿地回復への取り組み

行徳野鳥観察舎友の会　若林　直樹



行徳野鳥保護区は今から約30年前、当時は浦安から行徳までの一帯が「新浜」と呼ばれる広い干潟だったのですが、そこが埋め立てられた際に、自然保護運動を行い、その結果として当時の海岸線近くに残された約50haの土地です。保護区ができた5年後には観察舎も出来、間もなく今の鉄筋コンクリートの観察舎に立て替えられ、たくさんの人が利用してくれるようにという事で「行徳野鳥観察舎友の会」が結成されました。

さて、鳥たちの為に広い土地を確保し、幸先のいいスタートをきった保護区でしたが、早速2つの問題が発生しました。

1つは保護区の陸地化です。もともと新浜一帯は海の潮が引いている間に現れ、満潮になると海の下に沈む「干潟」の環境でした。当時、地盤沈下が大変激しく、放っておくと保護区は全部海になってしまう、ということで、大量の土を入れたのですが、その後間もなく地下水の汲み上げが制限されて沈下が止まり、保護区は陸地と海がはっきり分かれた所になってしまいました。そして、かつて保護区の干潟にエサを採りに来ていた沢山のシギたちも姿を消してしまいました。

もう1つは保護区の前を流れる丸浜川の汚染です。家庭排水が流れ込み、もともと流れがほとんど無いこと、わずかな塩分を含んでいる事から大量の硫化水素が発生し、あまりの臭いに付近の住民から苦情が出るほどでした。

このように、保護区はお世辞にも「野鳥の楽園」とはいえない状態になってしまいました。なんとかできないものかと思っていた所、水の浄化に詳しい宇井先生から、「水車を回し、空気を水中に吹き込むことでバクテリアの働きを活性化させると効果がある」というアドバイスを頂いたのです。また丁度その頃、トヨタ財団の研究コンクール「身近な自然を見つめよう」の募集が行われている事を知り、ぎりぎりで応募した所、これまた幸運な事に予備研究助成チームの1つに選ばれ、資金の力も何とか目処がつきました。

早速水車を購入、電気を引いて許可を取り、丸浜川で回した所、まずイトミミズ、アカムシ、サカマキガイといった小さな生き物が増え、やがてそれらをエサとする鳥たちの姿も見られるようになりました。

さらに、陸地化した保護区に鳥たちを呼び戻す為、保護区の中に新たに池を掘り、きれいになった丸浜川の水をポンプを使って汲み上げ、そそぎ込んで保護区の中に池を造りました。次第にカモ、シギ、サギといった水鳥たちが戻ってきました。

やがて、私たち友の会がやってきた水車による家庭排水浄化、池造りといった活動は、市川ロータリークラブからの支援による新たな池造り、さらには千葉県の「内陸性湿地帯整備事業」に引き継がれる事になりました。

現在、保護区では友の会で造った池とは別に、隣の排水機場に集まる家庭排水を汲み上げ、保護区の中で水車を回し、その水を浅い棚田に順々に流し、日光にさらす事で浄化を行い、淡水性の湿地を確保し、鳥たちの暮らしやすい環境を創り出しています。

草刈りや、新しい観察ルートの開拓・整備・さらには放っておくと池に生えてくるアシを刈り取る為のトラクターがけも観察舎の若手職員によって行われ、保護区はスタートの時とは若干違う形ながら、「内陸性湿地」として生まれ変わりつつあります。

さて、今までお話してきたのが、行徳野鳥保護区・観察舎が今の姿になるまでの簡単な経緯です。ですが、我々友の会のメンバーが今の保護区の姿を約２５年、常にイメージしながら歩んできたかというと決してそんな事はありません。せいぜい、いなくなった鳥たちが戻ってくるといいね、そしてかつての行徳の原風景を知ってもらえる場になるといいね、という位です。ただ、丸浜川が汚染されて困っている時に水の浄化に詳しい方のアドバイスを得た事、トヨタ財団のコンクールに応募して入選できた事、やがて浄化された丸浜川の水を使って池を造った事、ロータリークラブの支援で新たに池を造った事、県の再整備事業が始まった事、そして今年度からNPO団体としての認可を受けた事、全て「犬も歩けば棒ぐらい見つかるだろう」という感じです。

ですが、大事なのは「とにかく歩くこと」ではないでしょうか。結果はどう出るかわからないにしろ、とにかくやってみて、予想した結果ならそれでよし、予想外の結果ならそれをまた楽しんでも良いし、困った事になっても、それはさらに新たな一歩を踏み出す「力の素」になるはずです。友の会のウリは「とにかくやってみる事、そしてそれを楽しむ事」です。皆さんも是非参加してみませんか？「何かやってみよう」という方、大歓迎です。

連絡先：市川市南行徳１－５－１８－２０５
Tel.・Fax. 047 － 396 － 2314

訪問シリーズ

―ホタルも人も輝くまちに―

「第４回八千代環境フォーラム」が、八千代市歴史民族資料館において３月12日開催され、まず市長大澤一治氏の挨拶があり、小坂雄二氏の基調講演が続いた。大阪では東京に負けないでやろう、議論よりまず行動をと、失敗も多いが活動する時のフットワークが軽い。関東も見習う部分だ。また、ＮＰＯのために市民活動を支える制度をつくる会「シーズ」を設立した経緯を述べた。

事例発表の最初は、環境保全課の鎌田清氏がグランドワークによるまちづくり「ホタルの里づくり」に取り組み、現在340名10団体に拡大しているとの報告。

次に「街づくり市民の会」太田博氏が、多くの思いの人々を巻き込むには、少しずつゆっくり活動を歩むことが大事と述べ、新川を10,000人が両手を拡げて輪になろうと提案した。テレビ「電波少年」のロッコツマニアのスワン号に新川を漕いでもらう企画が、残念ながら頓挫したとの夢にあふれたお話しもあった。

最後に「八千代バラの会」石井成二氏が美しいバラを見ているうちに、なぜ花は咲くのだろう、なぜ葉は緑なのだろう、なぜ根があるのだろうと仲間で討論し始めた。そして、二酸化炭素を吸収し酸素を排出、昆虫が受粉を仲介、実を動物が食物にし種を遠くに排泄するなどを考えると、花づくりは趣味に終わらず環境問題だと気づいた。また、太古は裸子植物だったが、恐竜が絶滅してからは昆虫を仲介とした効率の良い受粉をしようと、被子植物に形態を変えていった。このような動物・植物の関係を子どもたちに分かりやすく展示する「エコ・ミュージアム」を政策提案している。恐竜時代の石油・石炭・自然などの資源を現在の私たちが浪費し、環境問題を引き起こしている。

今まで趣味の会と見られていた活動も、切り口を変えれば充分に環境の視点を持てるとの興味深い示唆だった。

広報部　縣　和子

連絡先：八千代市大和田新田９３１－３加藤　賢三
Tel･Fax ０４７４－５０－９０７７

結果発表!!　No.12「だより」で募集

運営委員・スタッフ

北村元良さん（千葉市在住・環境カウンセラー）から応募いただき、書記としてご協力ご活躍をお願いすることになりました。

千葉県内の環境団体をネットワークする役目と、パートナーシップによる環境保全を目指して、活動をしてくださる方を引き続いて募集します。自薦・他薦を期待しています。

広報部通信員

大山長七郎さん（四街道市在住）加藤賢三さん（八千代市在住）にお願いすることになりました。

広く各地域の情報を吸い上げてくださる通信員を引き続き募集します。イベントや地域で頑張っている人を紹介したいといった情報などがあれば連絡をいただきたいのです。会議への出席は必要ありません。

略称コンクール

総会の席上で、参加者の皆様にアイディアを寄せていただきました。「環境ちば」「環パち」「ちば環パ」「EPC」「KPC」などの候補が挙げられた中、挙手をお願いし圧倒的多数で「環パちば」が支持されました。

さっそく「だより」今月号でも、「環パちば」の略称を使用しています。可愛がってくださいね。

〈環境パートナーシップちば〉

入会申込書（該当するところを○で囲んで下さい）

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏　　名		入会月日	
住　　所	〒		
Ｔ Ｅ Ｌ		Ｆ Ａ Ｘ	
申込み先	TEL 043-246-2180　FAX 043-246-6969		
年 会 費	個人１，000円　団体２，000円　賛助会員５，000円		
会費納入先	郵便振替口座　00160-9-401872　環境パートナーシップちば		

編集後記

桜咲く春は、異動の季節。［だより］が、昨年度から年４回の発行が６回になり、取材・編集・発行のサイクルに慌ただしく追われながらも、和気あいあいと支えてくれたスタッフの柏木・荒井・平松が、広報部を離れることになりました。勤務や自分の所属団体の活動を担いながらの協力、本当にありがとうございました。

今年度からは新メンバーの時任、そして継続の縣・山口・畠山で力を合わせて頑張ります。

担当副代表も川原から深尾にバトンタッチ、助言でバックアップをお願いします。

広報部長　縣　和子

この「環境パートナーシップちば」だよりは、再生紙を使用しています。

情報コーナー　イベント案内版

平成１２年５月２５日発行

環境パートナーシップちばから学習会のお誘い

「地球温暖化防止を考える！！」—環境パートナーシップ　アクションのとき

日時：５月27日（土）13:30～16:30

会場：千葉市立美術館　11階　講堂　　Tel 043-221-2311

主催：環境パートナーシップちば　　共催：千葉県環境財団

内容：映画「海　知られざる世界　—奇跡のバランスが崩れる時—」

解説と講演—衆議院特別職政策担当・エコシステム研究会会長　上野 勛黄氏

話題提供　①「地球の危機」千葉県環境研究所　騒音振動研究室長　理学博士　石井　晧氏

②「千葉県地球温暖化防止策について」環境生活部環境生活課政策室　高梨　秀一氏

「環境パートナーシップちばの取組みについて」環境パートナーシップちば代表　横山　清美

資料代：300円（会員無料）　＊　当日参加も歓迎いたします。

お近くの方お誘いあわせの上ご参加下さい。

イベント（行事）名	日　程	時　間	内容（場所・用具・参加費・定員など）	主　催	連絡先
みつばちの不思議	５月２７日 雨天中止	１０：００～	みつばちの生態の不思議を見てみよう！ 永島宅庭先（御宿町浜２８５）要連絡	リサイクルグループ「かもめ」	0470.68..3529. 永　島
勉強会「三番瀬・海辺のふるさと再生計画」	５月２７日	１８：00～	会場・行徳公民館 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ北原理雄氏（千葉大学都市計画工学）	三番瀬・海辺のふるさと再生計画実行委員会	047.358.6833 町　田
月末観察会「八鶴湖周辺の散策」	５月２７日	９：４６～	八鶴湖を巡る穏やかな山並みをたどる ＪＲ東金駅９時４６分集合（ＪＲ千葉駅發９：11乗車）	千葉県自然観察指導員協議会	0475.34.2675・ 猪ノ坂
夕暮れ観察会	５月２７日	１６：３０～ １８：00	集合・野鳥観察図書館前１６時３０分 雨天時は室内	行徳野鳥観察舎友の会	047.357.0730 清水（夜間）
成山の自然観察会	５月３０日	１０：00～ １５:00	集合：みそらバス停　１０時	四街道自然同好会	043.732.5677 市　川
ゲンジボタルを見る会	６月２日	１９：00～ ２１：３０	集合：みそらバス停　１９時	四街道自然同好会	043.732.5677 市　川
真間山自然観察散歩	６月３日	13:30～ 16:00	集合：市川市手児奈霊堂　案内：高野・吉岡氏 参加費 200 円　小雨決行	江戸川環境ネットワーク	047.375.2987 平　松
第１回利根川探索	６月３日	９：２０～	集合：ＪＲ取手駅改札口　取手乗船場より建設省の河川巡視船で利根川探索　定員：２０名	ふれあい手が沼の会	0471.84.6734 田　宮
平成１２年度 エコフェアいちはら	６月３日	11:00 15：30	市原市市民会館　「ライオンキング」上映 リサイクル品、ケナフの紙漉他　参加費無料	市原市環境部と実行委員会	0436.22.1111 環境管理課.
三番瀬散策会 「沖の大洲」	６月３日	11:00～	集合：澤田釣り具店１０時　要申込 参加費：大人 2000 円・小学生 1000 円・幼児 300　円	行徳の自然に親しむ会	047.358.6833 町　田
初夏のネイチャーゲームとケナフの植え付け	６月４日	１０：１５～ １７：３０	集合：市原市市民の森　弁当他農作業の支度 参加費：１人５００円　要問い合わせ	市原ネイチャークラブ	0436.96.0236 鈴　木
探鳥会 「木更津・小櫃川」	６月４日	９：３０～ 14：00	集合：畔戸高須入口バス停９時 30 分 ＬＲ木更津駅西口２番バス停８：５５発金田中島行きに乗車　参加費：２００円	日本野鳥の会千葉県支部	0436.41.1195 田　中

イベント（行事）名	日　程	時　間	内容（場所・用具・参加費・定員など）	主　催	連絡先
市川いいＥボートin江戸川	６月４日	１２：00～１６：00	集合：ＭＧマリーン隣接の河川敷 地図ＦＡＸ送付可能	江戸川・水フェスタinいちかわ	047.353.8134 横　山
昭和の森自然観察会「川や池の仲間たち」	６月４日	13:00～15:00	集合：昭和の森公園第二駐車場あづま屋 参加費：１００円	千葉県自然観察指導員協議会	043.237.9303 和　仁
里山の手入れ「下草刈り」	６月５日	９：３０～１５：00	集合：佐倉市岩富少年野球グランド 雨天時は、８日に延期	佐倉里山クラブ	043.462.8976 美濃輪
ちば環境情報センター総会と懇親会	６月１０日	１０：00～１４：00	会場：ちば環境情報センター事務所 総会と懇親会	ちば環境情報センター	043.223.7807 センター事務所
エコウオーキング・野田の町並みを歩く	６月１１日	８：３０～	集合：ＪＲ西船橋駅改札口内側（改札を出ない） 案内：北城昭夫氏　参加費1000円・弁当・小雨実施	江戸川環境ネットワーク	043・432・5677 猪ノ坂
環境フェア	６月10日 ６月11日	10：00～16：30	幕張メッセ　国際展示場９～１１階ホール ２１世紀の環境問題の行政や企業の取り組みを紹介ステージ企画やクイズ等内容盛りだくさん	千葉県環境財団環境学習推進室	043.246.2180 環境財団
親子エコクッキング	６月１１日	１０：00～１３：００	会場：さわやか県民プラザ　２階料理室 おいしくて環境にも良い料理を作る	千葉県環境財団	0471.40.8604 エコクッキング係
講演会「印旛沼保全事業と鹿島川拡幅工事」	６月１７日	９：30～１２：００	会場：佐倉市中央公民館 講師：建設省利根川下流工事事務所開発調査課長 参加費：無料　定員１００名	佐倉印旛沼ネットワーカの会	043.483.0068 金　山
森とあそぶ「森林体験と森林ボランティア」	６月１７日～１８日	―	会場：群馬県川場村世田谷区民健康村 森の中に入りあそび学ぶ。森林管理のための下草刈りと道具の使い方を学ぶ	東京農業大学生涯学習センター	03.5477.2562 石　川
観察会「四街道の農園」	６月２４日	１０：００～	集合：形成電鉄志津駅南口　要申込 車に分乗して「ふじ農園」へ　担当：楠元	千葉県自然観察指導員協議会	043.237.9303 和　仁
平成１２年度エコマインド養成講座	６月２４日～９月３日	―	日程：要問い合わせ 申込方法：はがき　　参加費：無料 会場：日程ごとに移動	千葉県 千葉県環境財団	043.246.2180 環境財団
こどもエコクラブサポーター＆コーディネーター研修会	６月２５日	10：00～15：00	会場：さわやかちば県民プラザ（ハガキ申込） 〒２７７－０８８２　柏市柏の葉４－３－１ （財）千葉県環境財団環境学習コーナー管理室	千葉県環境財団	0471.40.8604 サポーター＆コーディネーター研修
エコウォーキング三浦半島の磯観察	７月２日	６：５０～	集合：ＪＲ市川駅改札（７：０３横須賀線乗車） 弁当・磯にはいるための靴等持参 参加費：1000円　　要申込　小雨決行	江戸川環境ネットワーク	043・432・5677 猪ノ坂
スバルの天文教室見てみよう皆既月食	７月１６日	２２：００～１：00	市原市三和運動公園　　要申込 ３３年ぶりの皆既月食を観察	市原ネイチャークラブ	0436.75.7252 清　水
県民環境講座	７月２３日～９月１７日	１３：００～１５：４５	日程：7/23/　8/6/　8/20　9/3/　9/17　(全５回) 会場：さわやかちば県民プラザ（柏の葉）	千葉県環境財団	0471.40.8604 環境学習コーナー管理室
スターウォッチング「夏の星座とギリシャ神話」	７月２９日	１９：００～２１：００	会場：市原市農業センター 筆記具　敷物　懐中電灯 参加費：おとな３００円　こども２００円	市原ネイチャークラブ	0436.75.7252 清　水

情報コーナーへの情報お待ちしています。お知らせは事務局まで。

事務局:千葉県環境財団環境学習推進室内　FAX　043－246－6969
〒260-0024　千葉市中央区中央港1－11－1